

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	同志社大学	整理番号	L03
プログラム名称	グローバル・リソース・マネジメント		
プログラム責任者	和田 元	プログラムコーディネーター	内藤 正典

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、最も困難な状況にある人々に寄り添いともに解決法を見出していけるリーダーを養成するというミッションを掲げ、文理融合型教育の下で多文化共生の知識だけでなく、現場で実効性のある技能をインターンシップやオンサイト実習、フィールドワークで学ぶなど優れたカリキュラムの構築に成功していると評価できる。本プログラムはプログラム担当教員の高い意欲とモラルにより支えられており、大学全体としてもその理念を共有化し、波及させようという強い意識が見られ、高く評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、修了者 13 名の就職率は 100%であり、その就職先は 9 名が民間企業、4 名がアカデミアとなっており、これは、修了者の汎用力が多様な就職先に結び付いた結果であるとともに、2 名のキャリアコーディネーターを常勤で配置し、履修生のニーズを丁寧に汲み取りながら就職支援を行った結果であると評価できる。当初想定された国際機関等への就職実績はないが、今後セカンドキャリアとして国際機関等を目指していくことが期待される。また、今後も修了者を継続して追跡し、キャリアパスの発展過程を跡付けることは、プログラムとしても意義があると考えられる。

事業の定着・発展については、支援期間終了後も 2022 年度まで本プログラム学生への経済的支援が準備されており、また、プログラムが副専攻として学内の全研究科・専攻に開放される形で継続されることが決定されているなど、常設化に向けて大学として積極的に取り組んでいることは評価できる。優秀な人材であるとともに、本プログラムの目的を十分に理解しコミットできる学生を恒常的に確保し、充足率を上昇させることが今後の課題である。このために学部と大学院の連結強化、博士前期課程のみの履修を可能とするなどの方策が示されており、これらの方策が速やかに実行され応募者の裾野が拡大されていくことが期待される。